

時代に挑む トップのアタマ

躍進を続ける企業のトップに聞く vol.24

北陸のみならず、閉塞感に覆われている日本の経済状況。そんな状況にもかかわらず、躍進を続けている元気な企業がこの北陸にもたくさんある。そこで、このような景況にもめげず業績を伸ばしている企業のトップたちに「元気の素」について聞いた。

株式会社 パステルラボ 伊藤数子



多くの人が喜んでくれる。そんな社会に役立つ提案は、必ずビジネスへと発展する

「ユニバーサルコミュニケーション」をテーマに、オンラインマーケティングや企画立案、制作等を行っている御社ですが、具体的には、現在どういったプロジェクトを手掛けているのか教えてください。

もともと14年前に事業を立ち上げた時は、「ユニバーサルコミュニケーション」という職業を自分で考え、異なる集合体がユニバーサルコミュニケーションを深めることについて、より良い関係になるためのプランニングを仕事にしました。さらに、ここ2〜3年は「ユニバーサルコミュニケーション」をテーマに、老若男女、健全者、障害者を問わず、いろんな人が生活しやすい環境・システム作りのためのユニバーサルコミュニケーションに変化してきました。例えば、2003年の電動車いすサッカークロム大会です。

その時の全国大会は会場が大抵だったため、長い移動が大きな負担となり、出場を辞退する選手が出てきました。当時ボランティアをしていた私は、そういった人にも大会中の緊張感や臨場感、感動などを一緒に味わって欲しいと考え、携帯電話のテレビ電話機能とインターネットを利用したユニバーサルコミュニケーションツールをプランニングしました。ただ、多大なお金がかかってしまうと、ボランティアの領域では継続できない気がして、この試みを一つの社会実験として通信会社に提案することにしました。これによって支援を得ることができ、予算をカバーすることができました。せっかく興した事業ですから、継続しないと意味がありません。次の年の全国大会には協会に公式中継として提案し、承認していただけたので、全国はおろか海外でも爆発的な利用者を得ることができました。

こうした経験から、社会に役立つもの

を提案していけば、事業として発展させることができることが確信できたんです。これが現在のテーマである「ユニバーサルコミュニケーション」の始まりです。現在では、携帯電話とICタグを使ったトイレにおける視覚障害者への音声ガイドなどにも参画しており、これまで意識せずに続けてきたボランティアとビジネスが一致し始めていることに自分でも驚いています。もちろん、先行投資となっている場合もありますが、本来ビジネスとは、相手に喜んでいただき、その代償として利益を得ることができるといいますから、こうした働きかけは、近い将来、必ず一事業として成り立っていると考えています。

「財」日本情報処理開発協会 (JEDBO) によって運用されており、個人情報の取扱いを適切に行っている民間事業者に対して審査を実施し、合格企業に「プライバシーマーク」の使用を認めるプライバシーマーク制度。個人情報保護法の制定とともに、大変注目を浴びている制度で

あり、御社の場合、2003年に北陸初の合格企業として取得していますが、その発想の起点と狙いを教えてください。

プライバシーマークの取得に関しても、「ユニバーサルコミュニケーション」と同様、「ここではなくここから」市場を考えて取得しました。特に当社のような事業内容の場合、世間に発表するまえの企画を扱うことが多いため、どれだけ機密保持に力を入れているかがクライアントからの信頼度を左右します。信頼度が高ければ、クライアントとのコミュニケーションも深まり、それによってよりクオリティの高い提案を行うことができますからね。

夢は諦めなければ終わらない
頑張り続けることには
ひとつの無駄もない

「どの企業においても、事業を進めるにあたっては、社員同士のコミュニケーションや、クライアントとのコミュニケーションは、非常に重要になってくるもの

だと思っています。それだけに、「ユニバーサルコミュニケーション」をテーマとしている御社ならではの取り組みには非常に興味があります。ビジネスシーンでのユニバーサルコミュニケーションはあるべきかというお考えと共に教えてください。

これからの時代は、企業間だけでなく、行政、企業、NPO法人、そしてボランティアグループが一緒になって、一つの事業を進めていくことが多くなります。それぞれの価値観や行動様式が違うため、事業に対する温度差も大きく異なることでしょう。また、これまでの時代に企業間では当たり前だった「しきたり」や「慣習」も全く通用しなくなっていると思います。そこで重要となってくるのが、リーダーの役割です。ただ前に進んでいくのではなく、相手のことを考え、全体を調整しながら、一つの目的を共有して事業を進めていく。これこそが、新しい時代に必要とされるリーダー像なんです。当社においても、スタッフが新しい時代のリーダーとしての資質が身に付く

よう、自己満足で終わらず、常に「相手」のことを考えるプランニングをするよう働きかけています。

最後に、業界を問わず、これからのビジネスシーンで活躍するためには、どのような価値観やビジネス観が必要か、読者へのメッセージと共にお願いします。

とにかく、夢や目標を持つことが大切だと思います。「夢や目標は別にない」と言う人もいるかもしれませんが、それは「ない」のではなく、「探していない」もしくは「ないフリをしている」だけなんです。夢を見つけてしまおうと頑張らなくちゃいけないってしまえば叶えませんが、逆を言えば、夢を持てば叶える努力をすることがあります。そして、諦めずに努力を続けられれば、ずっと夢へのチャレンジは終わらないわけですから、「夢の失敗」は存在しないんです。最初は小さな目標であっても構いません。自分の夢に着実に近づいていることを実感できれば、大きな充実感に満たされた毎日になると思いますよ。

多種多様な集合体が共同で 「ユニバーサル」を事業化する時代に、 これまでの慣習は通用しない



伊藤数子氏 とうかす
新潟大学工学部を卒業後、映像制作会社に入社。4年間、勤務したのち、28歳の時にコミュニケーションプランナーとして株式会社パステルラボを設立する。1999年に麻布オフィス、2004年には名古屋オフィスを開業。現在では事業展開だけでなく、金沢大学の非常勤講師や行政・自治体の委員、地域づくりなど、幅広い分野で活躍の場が広がっている。新潟県出身。42歳。

株式会社 パステルラボ
「ユニバーサルコミュニケーションプランナー」として、地域に関する調査研究、マルチメディアコンテンツの開発のほか、イベントの企画・制作・運営、さらには人材育成研修の総合企画プロデュースなど、顧客と企業、市民と行政といった異なる性質の集合体同士の意志疎通や相互理解を深め、老若男女、健全者、障害者を問わず、様々な人が生活しやすい環境を作るためのパイプ役を担っている。
●設立/平成3年4月1日 ●TEL/076-267-6688
●資本金/1,000万円
●所在地/石川県金沢市西部1-54(本社)